

9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3

ヨコ
1881



傳 繼 記 時、大 賴 因 傑

一 う り と う る る 放 到 く る

一 口 や そ そ の く の く

一 口 ひ ら の あ い が う の う

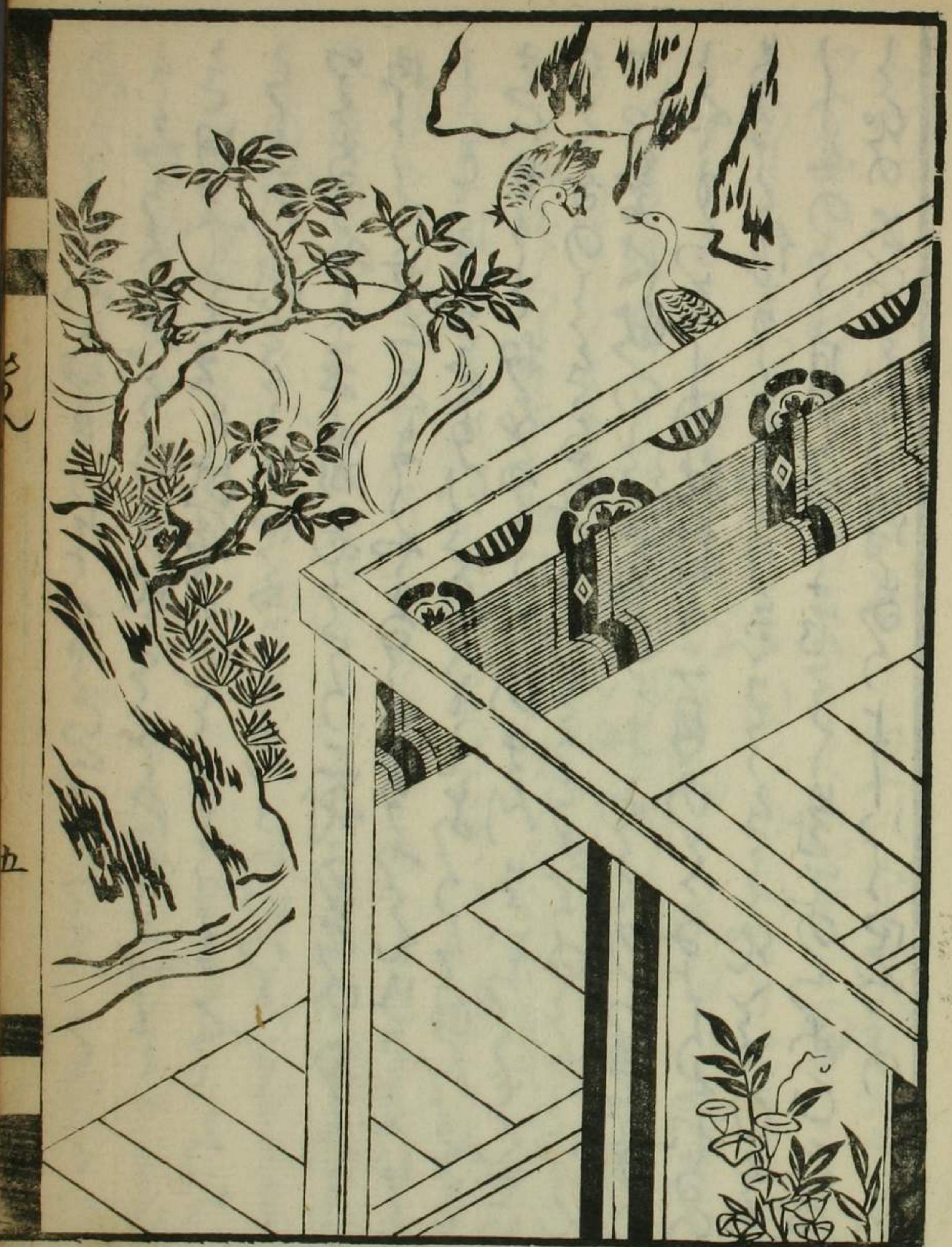
一 口 ふ ふ か は く の う

一 口 と ひ し け の き の う

一 口 い ぬ ま く の う

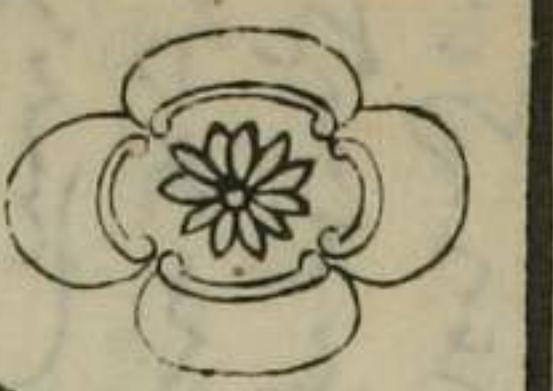
一 口 お ち ん え ふ じ は く る







蒙古文



風の弱けく
月の明けく
夜の静けく
月の圓けく

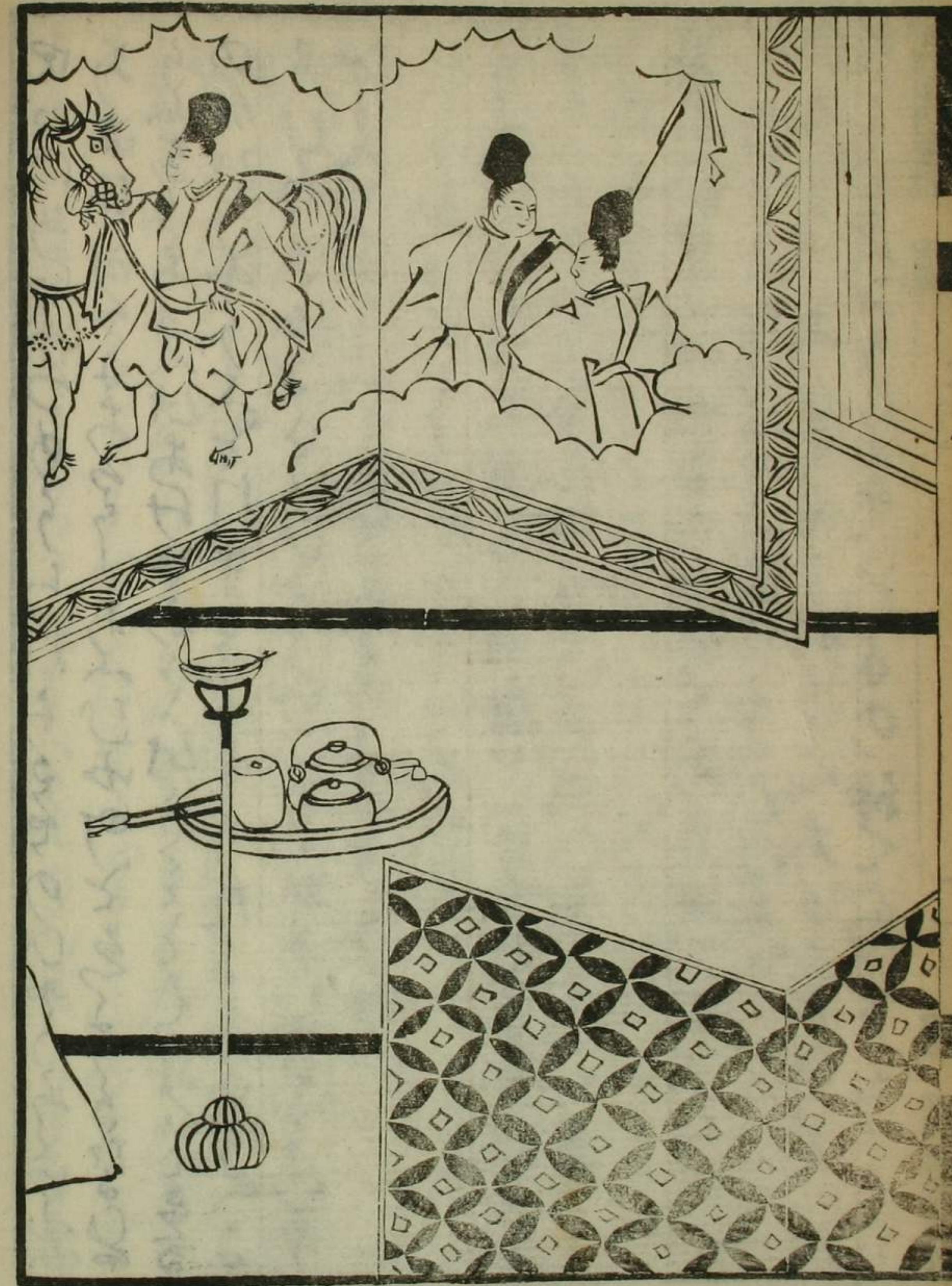
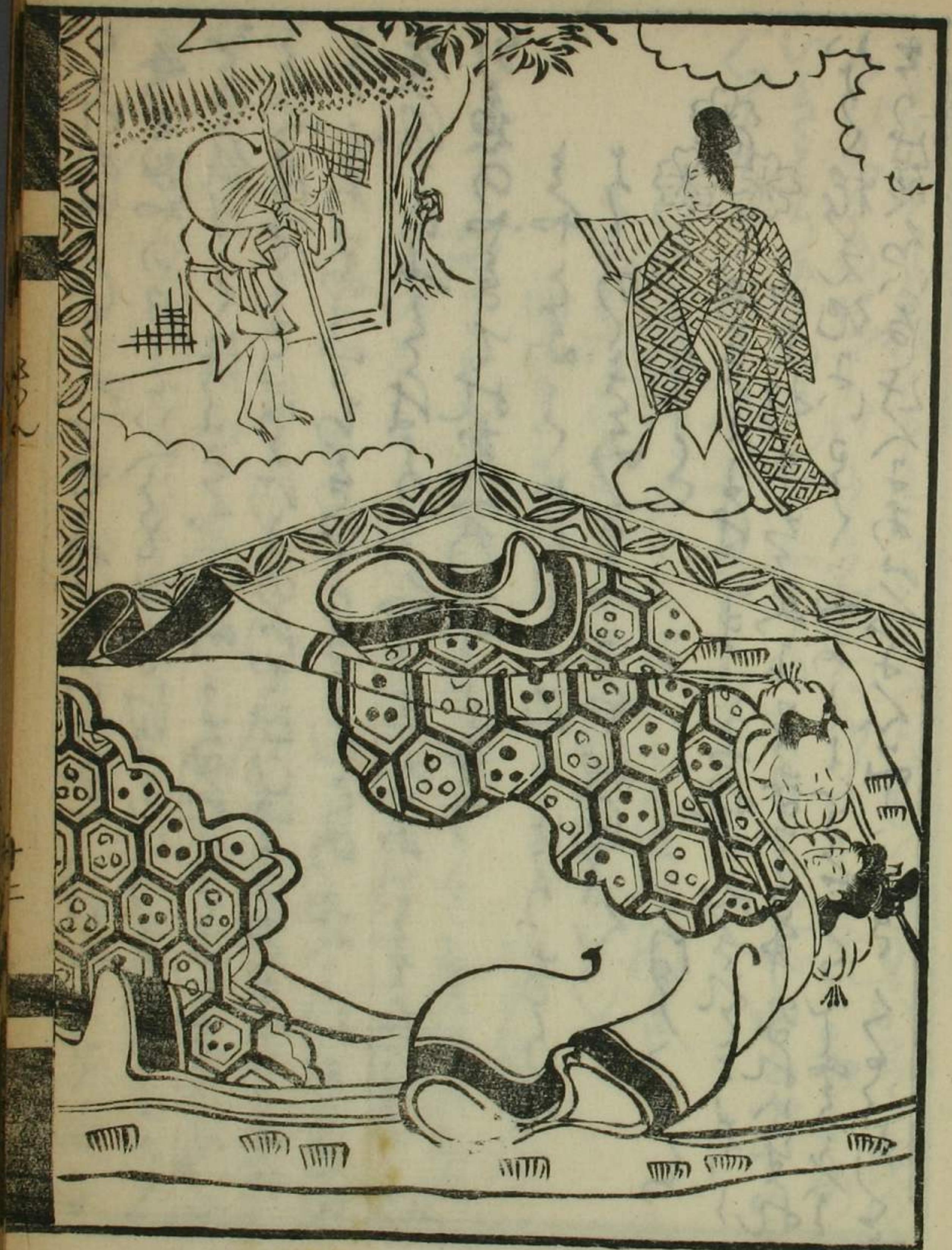


みよの香の山ふる
と

卷之三
三
五
七
九

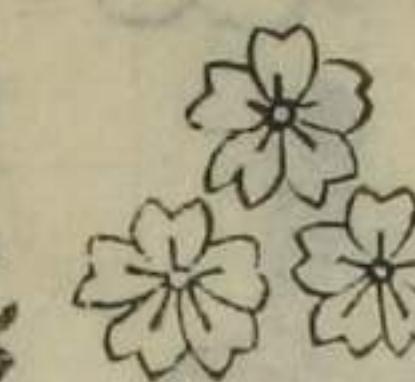
卷之三

よのへとれども強敵の攻撃を防ぐ
事あるまいとおもふとせいか
てちかくとちかくに近づいてからいは
ゆるが、やうやくわざわざわざわざわざ
あはははははははははははははははは
てちかくとちかくに近づいてからいは
ゆるが、やうやくわざわざわざわざわざ
あはははははははははははははははは



うれぬやうへよへとせうむかくとやく
毎日おひの日としにまわりとけ
とまはくへほくそくへ町をまわるこ
とはまつまのうへびひやとまくらが
とあめすらまくまのうへりあくもゆ
くまくまくまくまくまくまくまくま
うきのうきのうきのうきのうきのう

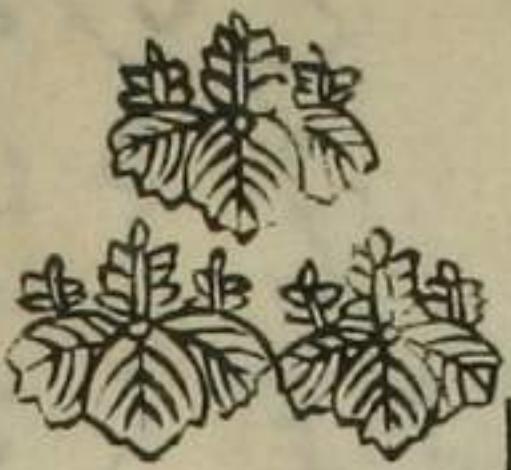
うのまくらやめに



彼は矢張りのやうに、自分は
國のそとへあれど、あやまつ
るよりて、國のやうであるはあ
りぬ。うりて、月の出る處の山
おんもぢるは、やうやく、
おもむきうちる。山の出る處の山
ともかく、さうして、あるひいそ
うの處を、おもむきうちる。

とまうじでがるの事、ゆきとてとゆを
みるをうまれてひそやかに見
れはちと佐あらわりの黒ひきをすま
ひやくもソラをけり。ソラをあらわす
やまとくわくよもじ。もじはくわくと
まくと佐あらわりの黒ひきをすま
ひやくもソラをけり。ソラをあらわす
やまとくわくよもじ。もじはくわくと

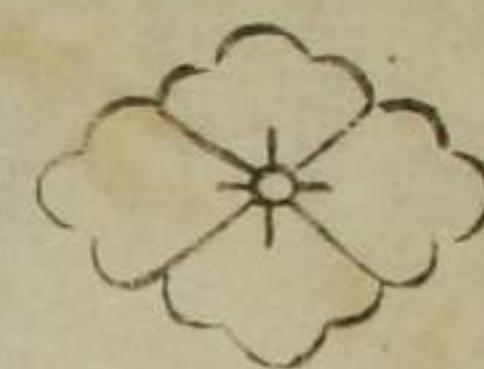
みくらへや、すまゆゑすめとちうづ
よーのくわくとくをゆく
いはくみ
氣子ア爾爾れ萬葉由
袖うそとす高天弓のや三河縣也
ほそみつめいよたうこあくらよてう
きをばひーうのむせりあくまの



مَنْ يَرْجُوا لِحَافَةَ الْمَوْتِ

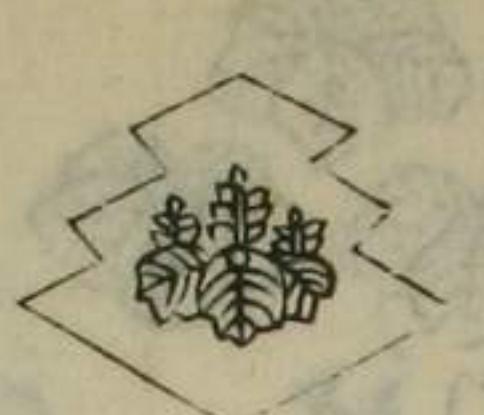
卷之三

卷之四



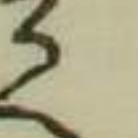
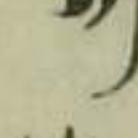
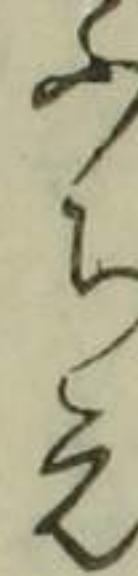
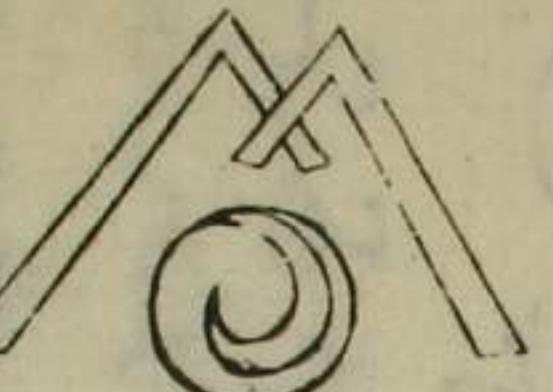
あるふれどもあれのうのあそびと
うよらむて、あく、あく

松
毛
之
大
也
可



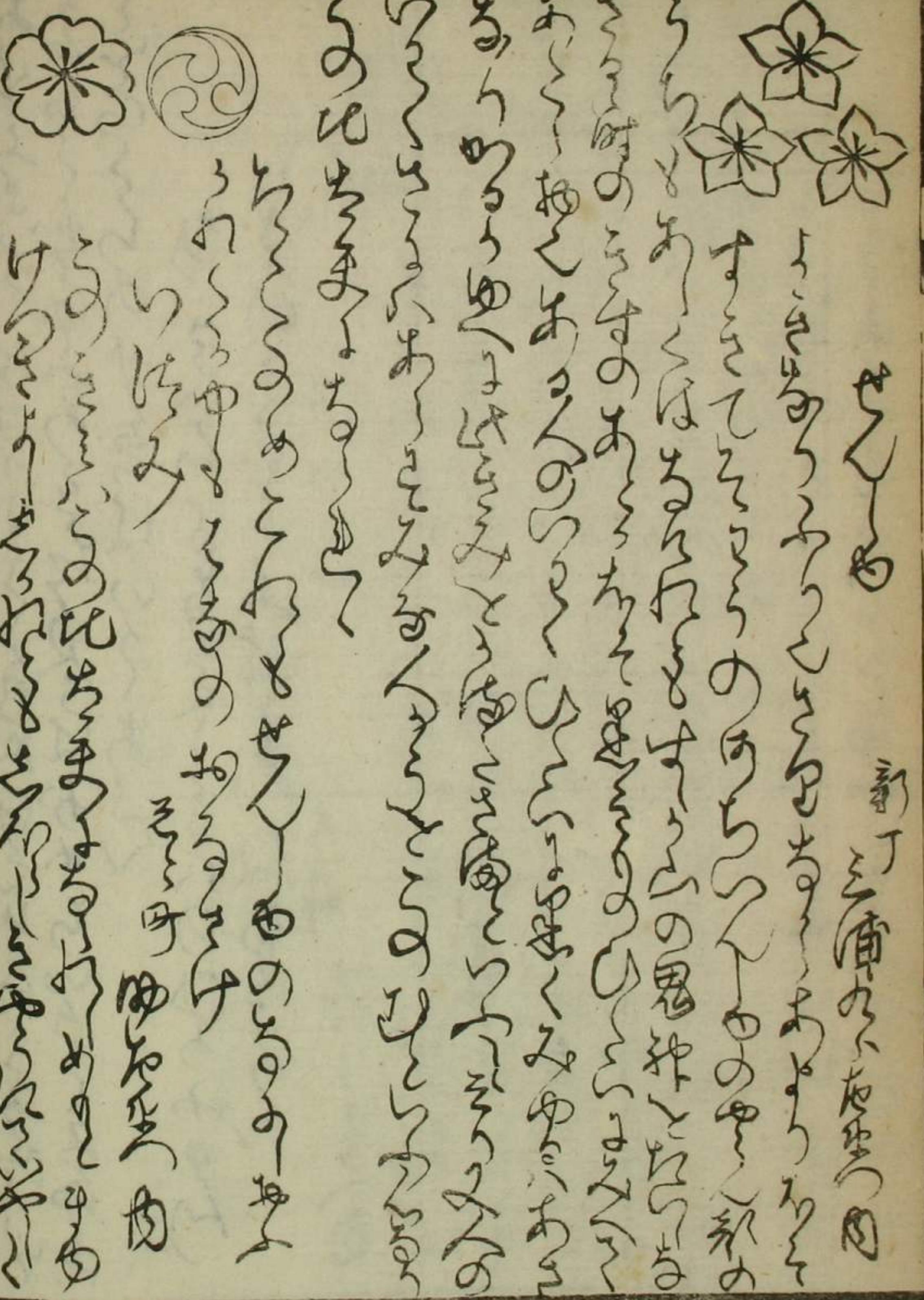
とくにいふべきは、あくまでも、
今も体へつるぬる
世の事、あらゆる事、
うすく、まことうそ
あらがひほよ
えりからぬる事、
あたまの事、あたまの事、
ちゆうじゆの事、あたまの事、
のちよやうの事、あたまの事、

かくは
ひまわりの花
あらわす
かくは
ひまわりの花
あらわす



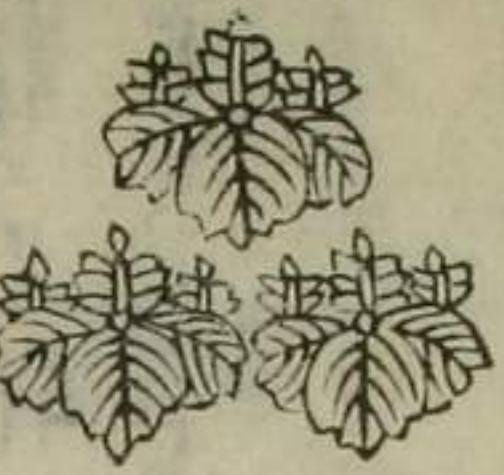
س

新丁之廟也。在西門內



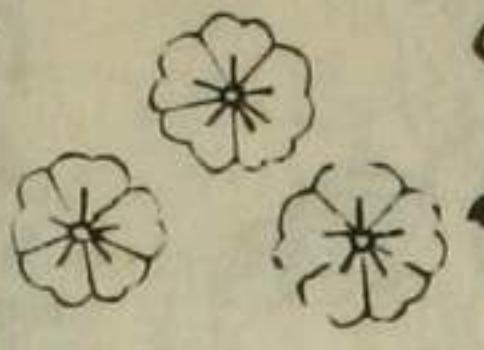
卷之三

卷之三



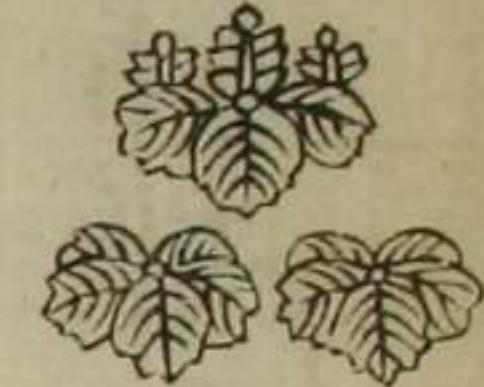
あらすじ
はまくら
よめ

おまかせの事は、おまかせの事だ
おまかせの事は、おまかせの事だ

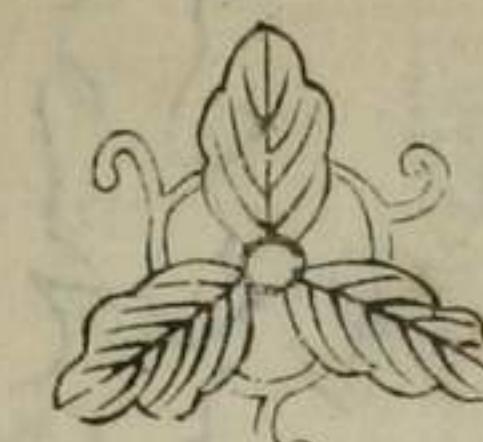


大系

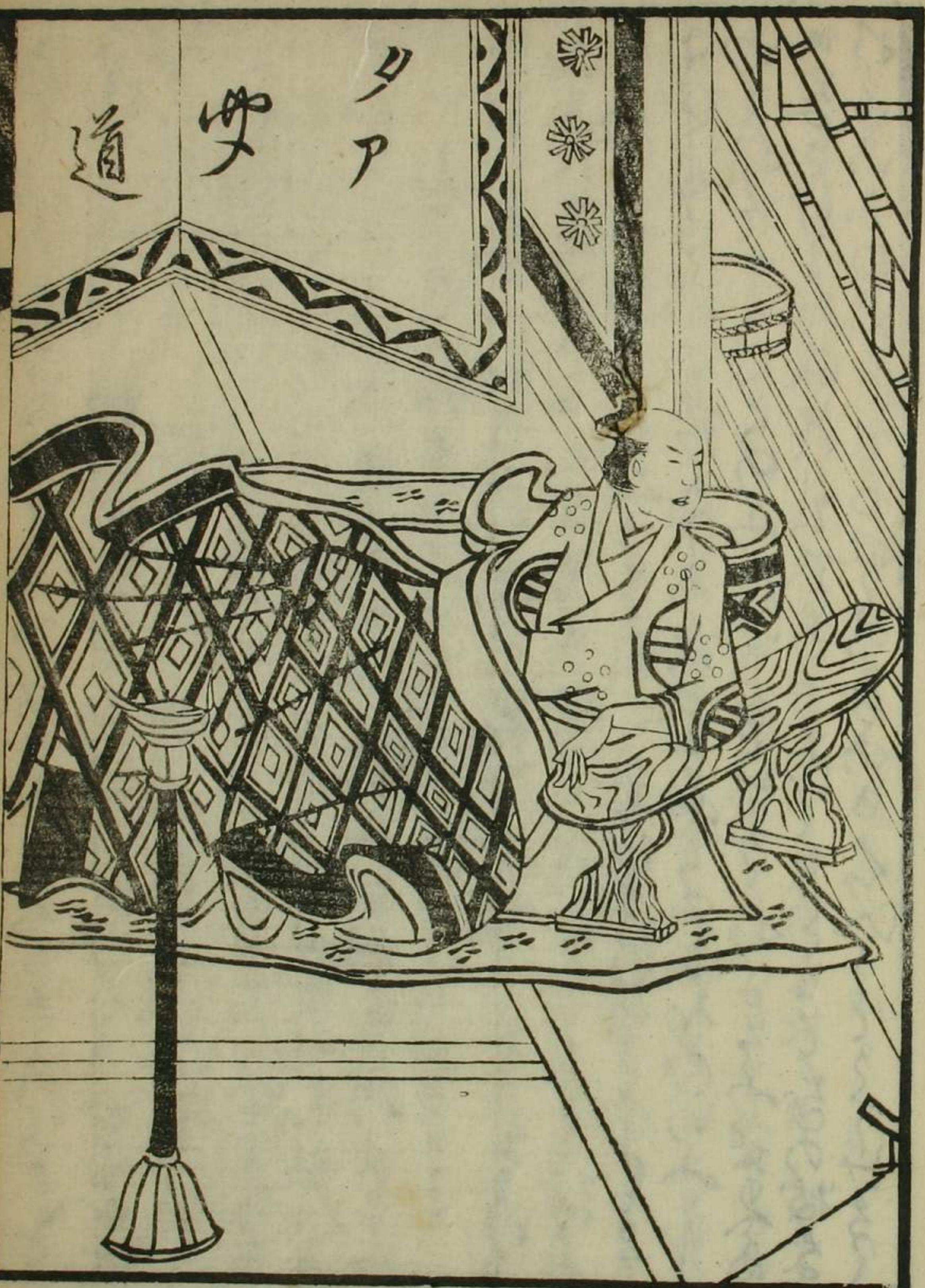
松之花はもとより山野の
風情をもつてゐるが、
此處ではその風情が尤も
はつきりしてゐる。



のまへるはよきもの
かくはとせんはとせんの口事
かちまとうらわや そくの物をも
ひみはとめゆれりあすとて
さくよせとてたまは
のま



通
文
タ
ア

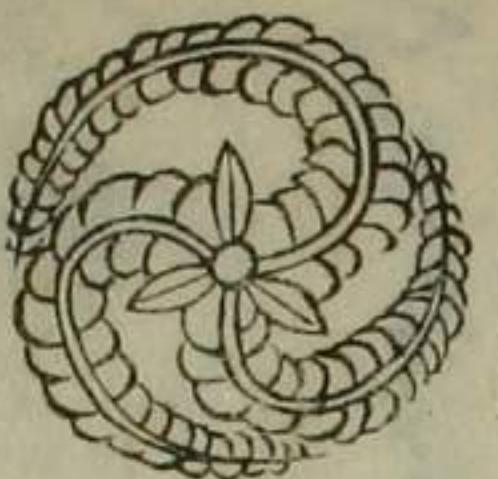


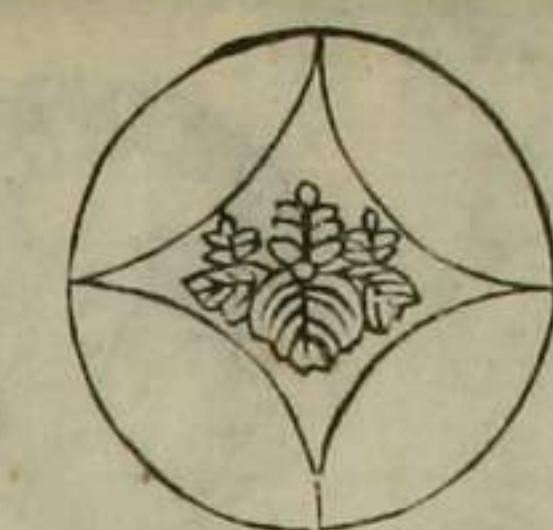
七二

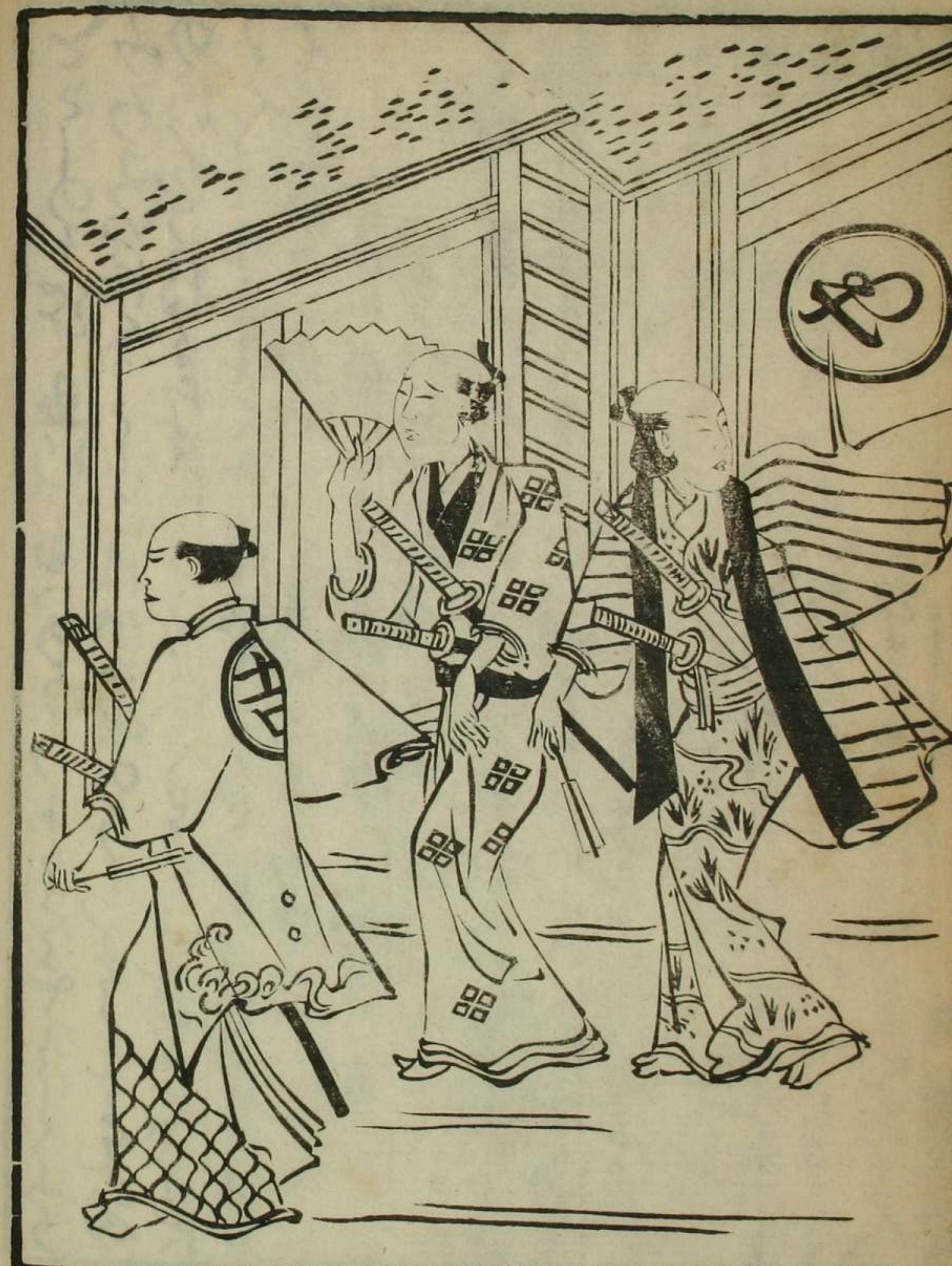
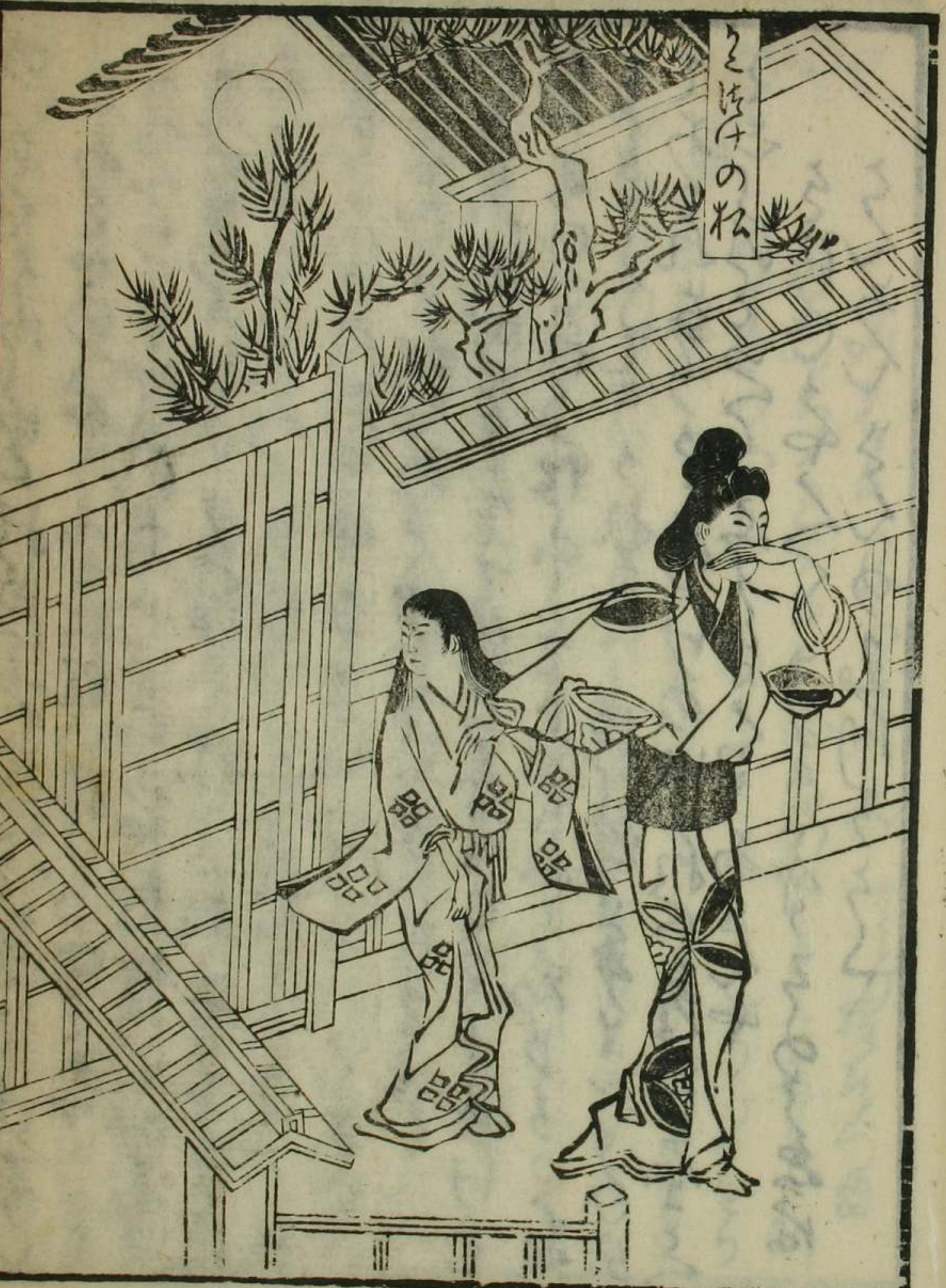


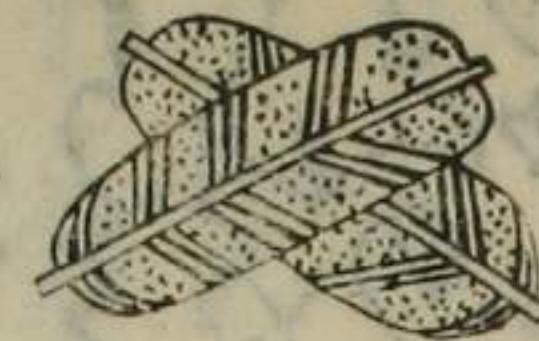
This image shows a page from a traditional Japanese manuscript. The text is written in a fluid, cursive style known as 'cautious hand' (kyōiku shodo). There are two distinct columns of text running vertically down the page. In the upper left corner, there is a decorative element consisting of a stylized flower or geometric shape enclosed within a diamond-shaped frame. The paper has a light beige or cream color, and the ink is dark, possibly black or brown.

三

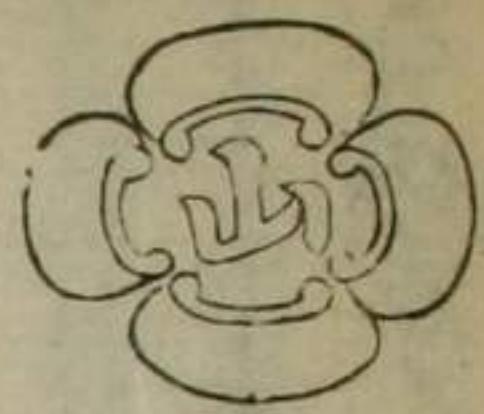








スミハシ



日午後
はるかに
松の木
はるかに
木の松

一 言語の發達の歴史 一 語彙の發展

一 人間の言語

新羅國主の御内侍 一 たゞ御内侍の御内侍

あらわすの

とひ、御内侍の御内侍 一 とひ

おもむくうへん

○
○
○
○

卷之三

女
也
也
也
也

卷之三

蒙古文

卷之三

卷之三

卷之三

まよひのうへとくわく
えのうへとくわく
あはれのうへとくわく
とくわく

おもやのうへとくわく
おもやのうへとくわく
あはれのうへとくわく
とくわく

ほんやのうへとくわく
ほんやのうへとくわく
あはれのうへとくわく
とくわく

あやうく
かのあひだ
ねづくらす
うめのむら
一も見がたま
りあるとみ

もあらへ

だらうがまゆのせ
肩をもよお

Gezien

おもいがくらしがくらむを
みるやあまきは

一
ちやく
の
じゆ

長治縣志稿

一
あひやめゆき
もん

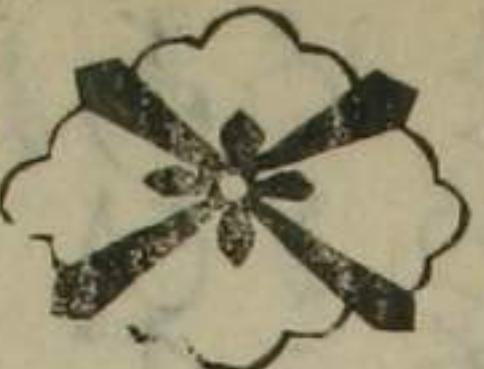
—
—
—
—
—

-9-

かくちや
ゆきのゆき

卷之三

一
五
五
九
九
九
九



一
かのめく
みゆき
あらわす
ひよし
ねじりゆく
ゆめくら
あらわす
ゆめくら

あは
ちのとくらむまつたうりまつ
がよどみほ御身の近
き事智事よりらう
てしゆきのじのけはらひととくもる
は唐角の酒とく
も傳よ者、魚罪闇之者、足下自戒、上も
とあきこじものとえすすまよぢくぬ

跋

書生のそぞらとあつたのを知る
おもはれへてあつたの邊へて
やあひあひあひあひのまの風の國と
うひいとすうひのまの風の國と
とくやくのまの風の國と
然やうとくやくのまの風の國と
海と風と山と川と山と川と山と
あれよひのまの風の國と
あひと風のあひと風の國と
あひと風のあひと風の國と
あひと風のあひと風の國と
あひと風のあひと風の國と
あひと風のあひと風の國と
あひと風のあひと風の國と
あひと風のあひと風の國と
ふ



